

試験研究成果普及情報

部門	果樹	対象	普及
課題名：千葉県における中晩生カンキツ類の優良品種の栽培法			
<p>[要約] 中晩生カンキツ類「はるみ」、「不知火」、「津之香」は露地栽培よりも雨よけ栽培で収量性及び品質がよい。摘果方法は、「不知火」では半樹摘果法が、「津之香」では全面間引摘果法が適している。果実の糖度、酸度は粘質土が黒ボク土より優れ、樹の生育は栽培初期では黒ボク土、それ以降は粘質土で優れる。</p>			
<p>キーワード： 中晩生カンキツ類 栽培 雨よけ施設 土壌 摘果</p>			
実施機関名	主 査 農業総合研究センター・暖地園芸研究所・果樹研究室 協力機関		
実施期間	2002年度～2007年度		

[目的及び背景]

多様化・高品質化する消費者ニーズに応え、観光農業を発展させるため、中晩生カンキツ類を新たに導入することが望まれている。そこで観光もぎとり、直売などに適した品種として選定した「はるみ」、「不知火」、「津之香」について栽培特性を解明する。

[成果内容]

- 1 中晩生カンキツ類は露地栽培より雨よけ栽培において葉数が多く（生育が早く）なり、収量と1果平均重が高くなる。糖度は「はるみ」、「不知火」で高くなり、「津之香」では低い（表1）。
- 2 「不知火」の収量は半樹摘果法により安定して連年生産ができる。「津之香」の収量は全面間引摘果法（葉果比120）により安定する（表2）。
- 3 「不知火」は粘質土で糖度及び酸度（クエン酸含量）が高くなり、黒ボク土で樹の初期の葉数多く（生育が早く）なる。「津之香」も粘質土で糖度、酸度及び糖酸比が高くなり、黒ボク土で樹の初期の葉数多く（生育が早く）なる。またいずれの土壌でも1果平均重に大きな差はみられない（表3）。
- 4 「不知火」の糖度及び酸度は階級間の差は小さく、粘質土ではいずれの階級でも糖度13Brix%以上を示す。「津之香」はいずれの土壌でも果実（階級）が大きくなるにつれて糖度及び酸度が低下する（データ省略）。

[留意事項]

- 1 中晩生カンキツ類は温州ミカンよりも寒さに弱いため、露地栽培では圃場内で冷気の停滞しにくい暖かい場所を選ぶ。特に「はるみ」、「不知火」は幼木時の樹勢を強化し、耐寒性を高める。
- 2 露地栽培では防風、防寒、防鳥対策を行う。

[普及対象地域] 県下カンキツ生産者

[行政上の措置]

[普及状況]

主に安房地域で温州ミカンを改植して中晩性カンキツ類が徐々に導入されつつある。

[成果の概要]

表1 露地及び雨よけ栽培方法の違いと品種特性 (平成16年産)

品種名	栽培方法	葉数		収量 (kg/樹)	1果平均重 (g)	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	糖酸比	収穫期 (月・旬)
		平成12年時 (1000枚/樹)	平成16年時 (1000枚/樹)						
はるみ	雨よけ	1.4	10.8	23.3	207	10.6	0.84	12.6	1・中
	露地	0.6	4.2	4.8	192	11.2	0.89	12.6	2・上
不知火	雨よけ	2.7	12.2	18.1	210	13.6	1.20	11.3	2・下
	露地	1.2	1.2	-	-	-	-	-	3・上
津之香	雨よけ	2.3	10.9	20.4	173	10.7	1.08	9.9	3・下
	露地	1.5	6.9	4.8	137	10.3	0.97	10.6	4・上

表2 異なる摘果方法における「不知火」と「津之香」の2年間の収量と品質 (平成18年～平成19年産)

品種	摘果方法 ³⁾	平成18年						平成19年						
		葉果比	収穫果数 (個/樹)	1果平均重 (g)	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	糖酸比	葉果比	収穫果数		1果平均重 (g)	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	糖酸比
									(個/樹)	前年比(%)				
不知火 ¹⁾	半樹	220	92	194	14.6	1.04	14.0	197	103	(112)	214	12.8	1.29	9.9
	枝別	156	109	180	14.2	0.98	14.5	281	60	(55)	185	14.0	0.99	14.1
	慣行	89	120	221	14.9	1.35	11.0	491	60	(50)	244	14.2	1.44	9.8
	全面	113	171	181	14.7	0.96	15.3	275	83	(49)	185	14.3	0.94	15.2
津之香 ²⁾	半樹	23	483	81	13.6	1.15	11.8	1,285	103	(21)	157	12.0	1.31	9.1
	枝別	40	362	102	13.8	1.08	12.8	462	41	(11)	194	10.7	1.09	9.8
	慣行	84	258	151	12.8	1.02	12.5	80	141	(55)	165	10.3	0.98	10.6
	全面	121	175	163	11.9	0.88	13.5	120	141	(81)	203	10.3	1.00	10.3

注1) 雨よけ施設で黒ボク土で栽培

2) 雨よけ施設で粘質土で栽培

3) 半樹: 樹全体を中心から左右に分けて片側をすべて摘果し、残りを無摘果にした。
枝別: 樹から垂主枝または側枝単位で樹の半数を選抜し、その枝以外の果実をすべて摘果した。
慣行: 葉果比80を目安に摘果をおこなった。
全面: 葉果比120を目安に摘果を行った。

表3 異なる土壌における「津之香」と「不知火」の生育状況と果実品質 (平成14～16年産)

品種	土壌	収穫年次	全葉数	着花数	着果数	収穫果数	1果平均重	糖度	酸度	糖酸比
			(1000枚/樹)	(100花/樹)	(個/樹)	(個/樹)	(g)	(Brix%)	(%)	
不知火	粘質土	H14	4.7	2.7	24	23	183	15.5	1.56	9.9
		H15	6.3	6.0	42	28	215	15.3	1.31	11.7
		H16	11.7	11.8	102	82	220	14.0	1.14	12.3
	黒ボク土	H14	5.4	1.0	22	19	194	13.5	1.25	10.8
		H15	7.4	1.1	27	23	181	13.8	1.14	12.1
		H16	11.2	21.6	640	99	238	13.3	1.27	10.5
津之香	粘質土	H14	5.1	45.8	73	72	104	11.4	1.07	10.6
		H15	6.3	4.9	20	15	213	10.7	1.31	8.2
		H16	11.7	69.0	694	157	140	10.7	1.08	9.9
	黒ボク土	H14	6.2	34.4	88	87	110	10.2	0.99	10.3
		H15	7.9	3.4	19	18	174	10.2	1.29	7.9
		H16	11.0	42.4	618	161	145	9.5	1.06	8.9

注) 栽培は雨よけ施設内

[発表及び関連文献]

平成20年度試験研究成果発表会 (果樹部門)

[その他]